

地域力創造のメカニズムの解明

～高知県中山間地域の四方竹のブランド化の事例研究～

1200394 池田 有紀

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1 はじめに

現在、人口減少や少子高齢化が進行し地域社会を取り巻く環境が変化している。そのような環境の中で地域社会の衰退を食い止めるための考え方の一つとして地域力がある。その定義は、論文や各地方公共団体によって様々であり、幅広い概念として捉えられている。

本論文は、市場創造や雇用の創出を通じた地域活性化のカギとなる地域力に着目し、地域力創造のメカニズムを解明することを目的とする。そこで、地域力がどのようにして創造されるのか、どうすれば地域における関係者間で協同が起こるのかについて事例研究を用いて詳細に示す。

本研究で地域力創造のメカニズムの解明を行うことで、地域の活性化の一助とする。

しかし、本論文での事例研究は単独事例であり一側面である。

2 先行研究

地域力とは、神戸市のまちづくりプランナーである宮西悠司に提唱され、阪神淡路大震災をきっかけとして注目されるようになった（合津千香、2008）。宮西（1986）は、地域力を「地域住民の抱える問題を地域社会の問題として捉え、共同で問題を解決しようとする行動力」と定義し、①地域資源の蓄積力（地域の居住環境整備状況、住民組織結成状況）、②地域の自治能力（住民組織の活動状況、地域イベントへの参加状況）、③地域への関心力（近隣・地域社会との関わり、地域環境への関心度合い）の三つで構成されると述べている。

それとは別に、総務省は地域力について次のように定義している（総務省、2010）。

「ひと言で「地域力」といっても地域資源や人的要素としてのリーダー力、住民力、公務員力、さらにこれらのつながり力、教育力、伝統力などの社会的要素、そして、一次産業、二次産業、三次産業などの経済的な要素、また、自然・環境・景観などの自然的要素など多様な要素、内容が含まれる。」

総務省は、さらに地域力が創造されたとする優良事例をいくつか列挙している。その際、事例を①地場産品発掘・ブランド化、②定住促進、③観光・交流、④コミュニティなどのカテゴリで分類している（総務省、2010）。しかし、地域力創造の具体的な優良事例はあるものの、その一つ一つにおいてどのようなプロセスで地域力の創造がなされたのかが具体的に示されていない。よって、本論文では以下に事例研究を用いて地域力がどのようなプロセスで創造されたのかを示し、地域力創造のメカニズムを解明する。

3 研究方法

本研究では、地域力創造のメカニズムを解明するために、顕著な単独事例を用いた事例研究を行い、そこから帰納法によりメカニズムを仮説として導出する。

事例研究では、全国より人口減少や少子高齢化が進行している高知県の事例を取り扱う。高知県では、産業振興計画を推進して市場の創造や雇用の拡大を図ろうとしている（高知県、2019）。その取り組みの一つとして地域資源を活用した地域アクションプランがある。今回はその事業の中で四方竹のブランド化における中山間地域振興事業を対象とする。この事例は、当事者と行政だけでなく様々な組織が関わり地域力が発揮された事例であると考えられる。

事例調査では一次調査として、2019年12月17日に高知市農林水産部土佐山地域振興課の土佐山地域振興担当者にインタビュー調査を行った。インタビューの目的は、四方竹の生産者の状況や四方竹のブランド化における中山間地域振興事業の取り組みの経緯、事業関係者とのコミュニケーションがどのようにしてなされたのかを知ることとした。また、高知県庁の「第3期高知県産業振興計画 ver.4 PR版パンフレット」を用いて情報の収集をした。二次調査では、新聞や論文、地域機関紙、インターネットを活用して文献調査を行った。

4 高知市の四方竹のブランド化における中山間地域振興の事例

4.1 四方竹のブランド化と課題

四方竹は食べるとシャキシャキとして上品な苦みと風味が出る中国南部原産の細長い筍である（JA グループ高知、2017:pp.4）。切り口が四角いことから、四方竹と呼ばれるようになった。高知県南国市の白木谷や高知市の七ツ淵・土佐山・鏡といった中山間地域が主な産地である（JA グループ高知、2017:pp.12）。寒さに弱く、潮気に弱いことから、比較的温暖な高知県の中山間地域に適した産物である（JA グループ高知、2017:pp.8）。

これまで、四方竹は傷みやすいため産地周辺でしか消費されていなかった（JA グループ高知、2017:pp.4）。しかし、現在は加工技術の向上により鮮度を保つことができるようになった

（JA グループ高知、2017:pp.4）。その結果、産地のみならず全国の料亭や小売店でも取り扱われるようになった。四方竹は県外からの人気が高まっており、高値で取り扱われることもある。高知県の四方竹の7割は県外に出荷されているが、需要に供給が追いついておらず、さらなる出荷量増加が求められている（JA グループ高知、2017:pp.12）。

四方竹のブランド化における課題は主に、①生産の難しさ、②加工の難しさ、③担い手の減少の三つが挙げられる。四方竹の生産では、年に3回の肥料を与えるなど肥培管理が重要である（JA グループ高知、2017:pp.4）。そのうえ、四方竹は急斜面

に生えることが多く、収穫時期が10～11月に集中するため、体力と人手が必要になる（JA グループ高知、2017:pp.4）。加工においては、四方竹は生のまま1日置くとダメになってしまうので収穫と加工がセットになる上に、アク抜きや茹で加減も難しい（JA グループ高知、2017:pp.4）。そのような四方竹を生産する中山間地域では、四方竹生産者がもともと少なく、生産者の高齢化が進み、地域人口の減少から後継者難に陥っている¹⁾。したがって、四方竹のブランド化にはいくつかの課題が複雑に絡み合っている。

4.2 地域振興としての取り組み

このような状況から、高知県が四方竹をブランド化し中山間地域を振興する事業を2009年に開始した（高知県庁、2017）。この事業の概要は、加工施設の整備等により生産と地域加工の促進を図ることで、全国的に稀少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育てようとするものである（高知県庁、2017）。そして、四方竹の生産を中山間地域の産業として確立することで雇用の創出や地域人口の増加による中山間地域の活性化を目的としている（高知県庁、2017）。

この事業には多くの組織が関わっている。それは、四方竹の生産者から構成されるJA高知市特作部会（七ツ淵筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特作部会）、これらの事務処理と流通・販売を担うJA高知市、土佐山で加工部分を担う夢産地とさやま開発公社、事業の進捗状況を把握する高知市役所と高知県庁、生産に関する専門的な知識を持つ中央西農業振興センター高知農業改良普及所などである（高知市役所、2013）。

特に、七ツ淵筍加工組合と土佐山四方竹生産組合は事業を活用して四方竹の生産を行ってきた²⁾。七ツ淵筍加工組合は、以前から筍の加工を主体としてきた³⁾。1974年には生産組合を組織し、加工を共同で行うようになった⁴⁾。1979年頃から四方竹の加工のための地域の加工場を整備してきた⁵⁾。2000年には、鮮度を高めるため製氷機が導入された⁶⁾。この頃からJA高知市を中心に販路の開拓も行われるようになった⁷⁾。2012年には七ツ淵に冷水機の導入が行われた⁸⁾。2016年に生産の多い農家に自

動選別機を導入し、周辺の農家と共同で利用している⁹⁾。七ツ淵には現在計6台の自動選別機がある¹⁰⁾。

土佐山には、以前から筍の加工場があったが、市場で中国産の筍が出回るようになり、加工場が閉鎖していった¹¹⁾。そこで、土佐山四方竹生産組合が筍の加工施設を活用し四方竹の加工を行うようになった¹²⁾。2013年には夢産地とさやま開発公社が加工施設を整備し、公社が加工部分を担うようになった¹³⁾。2016年に土佐山にも自動選別機が1台導入された¹⁴⁾。

他にも、高知市四方竹振興計画の策定、放棄園及び園地マップの策定、流通促進のための県内外へのPR活動など四方竹のブランド化に向け他にも多くの組織が携わり取り組んできた¹⁵⁾。それにより、四方竹のブランド化に向け生産や加工、流通・販売の効率化を行い、地域振興を図った。

4.3 取り組みの成果

以上で述べたように、四方竹のブランド化における中山間地域振興事業では、生産と加工の促進によって、各農家の生産目標を達成した¹⁶⁾。その結果、出荷量が増加し、流通販売の促進に伴い四方竹の知名度の向上にも繋がった。

しかし、四方竹の生産者が増えないことや後継者問題が解決されていないこと、自動選別機を導入したが人手を大幅に減らすことができていないことなど依然として課題が一部残されたままである¹⁷⁾。加えて、ほとんどの生産者が他の作物との複合経営を行っている中、生産のみで十分とする者、新たな加工品の開発・販売を視野に入れる者など、生産者により目指すところは様々であり、各生産者の目的に応じた対応も今後必要になってくる¹⁸⁾。

担い手の減少という課題は、四方竹のブランド化がなされることで生産者が増え、解決へ近づいていく。しかし、もともとの生産者が少ないことが四方竹のブランド化への障壁となっている。このジレンマを乗り越えることが大きな課題となっている。

5 協同のダイナミクス

この事業では、図1に示す協同のダイナミクスが見られた。それぞれの関係者は取り組むにあたって、四方竹のブランド化に向けて、生産・加工・流通販売の強化を共通認識とした。

高知県庁と高知市役所は連携し、四方竹のブランド化における地域振興事業の計画立案を行った。現場に足を運び、事業の進捗状況の確認なども行い、現場の声を聞きながら行政として組織間を結びつける役割を果たした。

JA高知市特作部会は高知農業改良普及所から生産に関する専門的な指導を受けて生産を安定化することができた。これにより、生産の効率化がなされた。

夢産地とさやま開発公社は、土佐山で栽培された四方竹を出荷に向けて選別し加工した。それはこれまで各農家でなされていたが、夢産地とさやま開発公社が一括して加工を担うことで、土佐山四方竹生産組合は生産に集中することができ、加工の効率化を図った。また、七ツ淵でも自動選別機の導入や加工施設の整備によって加工の効率化が行われた。その機械や施設の整備には行政からの補助金が活用された。

JA高知市は、JA高知市特作部会の事務処理と加工された四方竹を自身で築いた流通網を用いて流通・販売促進を行った。四方竹は出荷時期が10～11月に集中し人手が足りないため、高知市役所も販売促進活動を連携して行い、流通・販売の効率化がなされた。

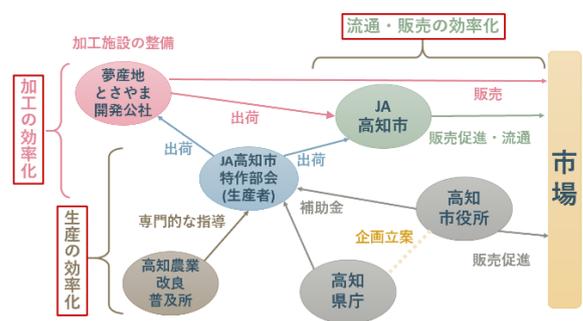


図1. 四方竹のブランド化における中山間地域振興事業の協同のダイナミクス

四方竹の自動選別機の開発・導入にもいくつかの組織が連携し、図2に示す協同のダイナミクスが見られた。関係者は取り

組むにあたって、四方竹の選別にかかる労力と時間の削減を共通認識とした。

四方竹の自動選別機の開発は、生産者から収穫作業時間の増加のために、四方竹のサイズに応じて選別する作業の自動化を求めた要望を受けたことがきっかけであった。それは、四方竹がサイズに応じて出荷されるため必要な作業であるが、時間と人手がいるからだ。県や市はその要望に応えるべく、ものづくり地産地消・外商センターへ四方竹の自動選別機の開発を依頼した¹⁹⁾。そして2012年にもものづくり地産地消・外商センターと高知県工業会は担当する企業を募った。申し出た企業が開発を進めたが、開発は難航を極め、その企業は辞退した（ものづくり地産地消・外商センター、2019）。その後、数社に打診したが引き受けてくれる企業がなく困っていたところ、地元企業で機械設計等を行う榊山ヒューテックが引き受け、開発に着手した（ものづくり地産地消・外商センター、2019）。異なる大きさや曲りのある四方竹を選別するため、何度も現場でデータを取り試行錯誤を3年間続けた（ものづくり地産地消・外商センター、2019）。そして、同社は高知工科大学の和田清によるドラム式を採用し、2016年に完成品をセツ淵と土佐山へ納品した²⁰⁾。こうした四方竹の自動選別機の開発と導入にはそれぞれ補助金が活用された（ものづくり地産地消・外商センター、2019）。

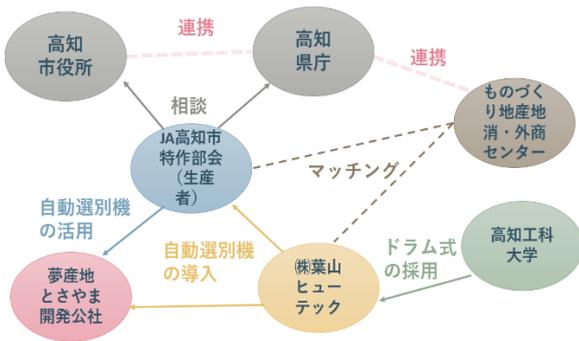


図2. 四方竹の自動選別機の開発における協同のダイナミクス

6 地域力の創造

四方竹のブランド化における中山間地域振興事業では、宮西の定義する地域力を構成する三つの要素が揃うため、宮西の定義する地域力が発揮された。土佐山とセツ淵において土佐山四

方竹生産組合とセツ淵加工組合という地域の組織で生産性を向上し、加工場の整備を行ってきたことから①地域資源の蓄積力があるということができる。JA高知市特作部会、JA高知市、高知県庁、高知市役所、高知農業改良普及所、夢産地とさやま開発公社などの組織が連携し取り組んできたことから②地域の自治能力があるということができる。そして、地域振興のため産業振興計画として取り組んできたことから③地域への関心力があるということができる。

また、総務省の定義する地域力にも当てはまる。この事業では、四方竹といった地域資源を活用した。高知県庁が高知県産業振興計画を計画し行動を起こした（リーダー力）。そして、地域住民である生産者が地域課題を解決するために行動を起こした（住民力）。また、高知市役所と高知県庁の行政としての補助金等を活用した（公務員力）。これらの力は総務省の指摘する人的要素である。他にも、関係者間で連携して取り組まれたのでつながり力がある。高知農業改良普及所の専門的で技術的な指導が行われたので教育力がある。古くから組合を組織し四方竹の生産を行ってきたので伝統力があり、これらの力は社会的要素に当てはまる。四方竹の生産（一次産業）、四方竹の加工（二次産業）、四方竹の流通（三次産業）といった経済的要素、また、中山間地域の竹林という自然・環境・景観の自然的要素も含まれている。同事業は、総務省が定義するカテゴリにおいては、①地場産品の発掘・ブランド化と④コミュニティに該当すると考えることができる。

したがって、四方竹のブランド化における中山間地域振興事業は宮西の定義と総務省の定義に当てはまることから地域力が創造されたということができる。

四方竹のブランド化における中山間地域振興事業では、関係者間で図1と図2のような協同のダイナミクスが見られた。この事業が、こうした協同で成果を出すことができたのは、高知県庁によって高知県産業振興計画という全体計画が策定され、その中で関係者が役割分担をしたからである。その上で、関係者間で良好なコミュニケーションが行われた。したがって、同事業では、図1のようなトップダウン型と図2のようなボトム

アップ型のプロセスが融合して地域力が創造されたということ
ができる。

以上から地域力の創造では、トップダウンのプロセスとボトムアップのプロセスの両方が必要であり、その融合をどのように起こすのかという視点が重要である。

7 おわりに

四方竹のブランド化における中山間地域振興事業は、多くの組織が連携し地域力が顕著に発揮された事例であるにも関わらず、人口減少や少子高齢化による担い手の不足を解決できていない。なぜかという、課題解決により解消されるが、課題があるから解決が難しいという大きなジレンマを抱えているからだ。このジレンマを乗り越えるには、地域内で取り組み創造される地域力に加え、地域外の組織や人と連携する力も必要であると考え。人口減少や少子高齢化といった複雑な課題が絡み合う地域において、外部からの客観的な視野を持つ組織や人と連携し、地域内に取り込んでいくことは開かれた地域として新たな技術や発想を生み出し地域振興に大きな影響を与えるはずだ。今後は、地域内だけでなく地域外の組織も含めた取り組みを進めることで地域の困難なジレンマを乗り越えていく必要がある。

注)

- 1) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 2) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 3) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 4) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 5) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 6) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 7) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 8) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者への

のインタビュー (2019年12月17日)

- 9) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 10) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 11) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 12) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 13) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 14) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 15) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 16) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 17) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 18) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 19) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)
- 20) 高知市農林水産部土佐山地域振興課土佐山地域振興担当者へのインタビュー (2019年12月17日)

参考文献

- 合津千香 (2008) 「住民の地域福祉活動推進に必要な「地域力」とその要素：松本市笹賀地区の活動をとおして」『松本短期大学研究紀要』17巻、pp. 43-56
- 宮西悠司 (1986) 「地域力を高めることがまちづくり—住民の力と市街地整備」『都市計画』143号 pp. 31
- 総務省 (2010) 「地域力創造に関する有識者会議最終取りまとめ (本文)」
- 総務省 (2010) 「地域力創造優良事例集」
- 高知県庁 (2017) 「平成29年度高知市地域アクションプランの追加、削除、拡充等 (予定項目) について」『第2回高知市地域アクションプランフォローアップ会議資料』
- 高知県庁 (2019) 「第3期高知県産業振興計画 ver.4 PR版パンフレット」
- JAグループ高知 (2017) 「いちず四方竹」『とさのうと』29号 pp. 4-9
- 高知市役所 (2013) 「高知市四方竹振興計画」

ものづくり地産地消・外商センター（2019）「高知家のものづく
り」